川越時間旅行 24

都市景観課 Tel 224-5961

黒漆喰の蔵造りに見る職人の技

蔵造りの建物を完成させるには、多くの時間がかかります。中でも壁は、竹を藁縄で格子に編んだ木舞という下地造りから、壁に艶を出すためのノロ掛けという仕上げに至るまで十数回という工程が必要です。

壁を仕上げる際に重要な役割を担うのが左官職です。左官の仕事は水仕事ともいわれるほど、水の引き具合(乾燥度合)で仕上がりが決まります。気候や季節、現場の状況に合わせて粘り気のある土と砂とスサ(植物繊維)の配合を変えながら練った土を、厚さが7寸～1尺(約21～30cm)になるまで何回も塗り重ねるため、白漆喰を塗る仕上げまでに3年もの歳月がかかることもあったそうです。そして総仕上げの黒漆喰を塗る工程は、たった1日で決まります。水の引き具合を見定め、貝灰や粉墨に糊となる海藻とつなぎの麻を混ぜた黒ノロを一気呵成に塗ります。いかに薄く平らにし、漆のような光沢を出すかが職人の技なのです。江戸黒と呼ばれる黒漆喰の重厚感ある壁は、こうして完成します。

壁は時間がたつにつれ、黒漆喰が薄れて下地の白漆喰とのグラデーションが現れることがあります。壁に注目して蔵造りの町並みを歩いてみませんか。

農のあるくらし かわごえそだち 24

農政課 Tel 224－5939

デンドロビウム

ランは、その種類が25,000以上あるといわれています。その中でもっとも種類が豊富なデンドロビウムは、ギリシア語で「木に生ずる」という意味を持つ着生植物で、野生では土ではなく木に根を張ります。どの種類も花の形は似ていますが、茎や葉の形状が異なり、草丈は数cmから3m近いものまでさまざま。種類が多く育てやすいため日本では、観賞用として人気があるそうです。

「挿し木をしてから出荷までに3年程かかります。きれいな色を出すために温度と日照管理に気を使っています」。と話すのは市内でデンドロビウムを栽培する皆木悟さん(上老袋)。

自宅で育てるポイントは、完全に乾いてから次の水やりをすることだそうです。

「開花後、10℃前後の低温の場所に置き、上手に育てると1か月程楽しめることもあります」

白、赤、ピンク、黄色などさまざまな色があるデンドロビウム。4月上旬まで伊佐沼農産物直売所、あぐれっしゅ川越の店頭に並びます。

編集後記 どんぐり

記録的な積雪を記録した今年の冬。「雪」という漢字は、雨かんむりに彗という字が簡略化されて「雪」となったそうです。ほうきで掃ける雨という意味のようですが、平野部に降る雪は水分が多く、ほうきで雪を掃くのは難しいかもしれません。雪が降ったあとに皆で協力して雪かきをする光景をよく見かけました。地域の絆を改めて感じるとともに、雪による被害状況が次第に明らかになって、胸が締め付けられる思いがしました。

オリンピックでの日本人選手の活躍に元気をもらった方も多いのではないでしょうか。6年後の東京オリンピックでは、ゴルフ競技が行われる川越から明るい話題を発信したいと感じました。

広報川越1314
■発行日／平成26年3月10日(毎月10日・25日発行)
■発　行／川越市　〒350－8601埼玉県川越市元町1丁目3－1　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
市役所代表 Tel 049－224－8811　Fax 049－225－2171
■編　集／広報室　　印　刷／㈲新広社

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。 リサイクル適性Ⓐ

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。